

女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

(実施期間：平成 25～27 年度)

実施機関：北海道大学（総括責任者：山口 佳三）

プロジェクトの概要

- (1) 全北海道女性科学者研究活動推進協議会“Full-HoWS”を設置し、北海道を拠点に活動する全ての女性研究者の所属機関によらない能力発揮・持続的活躍を図る。具体的には、各機関の個別ニーズに対応しながら、北海道大学が有する様々な支援策・育成プログラム等のノウハウに基き、組織の意識改革や広域メンター制度等の女性研究者の活躍促進・研究力強化等の共通課題に取り組む。また、保育施設・病児保育制度等の共有や効率的な活用も図り、首都圏等とは異なる北海道の立地環境を踏まえた、女性研究者の研究活動支援拠点の形成を図る。
- (2) 北海道内に立地し、北海道大学と連携・共同研究を行う研究大学、道立研究所、ベンチャー企業等、民間研究所を普及対象とする。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	b	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性教員を採用した部局に人事ポイントを付与するインセンティブ付与制度（ポジティブアクション北大方式）の付与期間を延長し、制度の更なる発展を図るとともに、キャリアアップ支援やリーダーシップ育成等を積極的に進め、女性正規教員の採用や上位職への昇任を増加させたことは、評価できる。一方、実施機関においては、女性教員比率が目標を下回ったものの、北海道内の機関による連携体制を構築し、実施機関の取組を普及させることにより、多くの連携機関において女性研究者の比率を上昇させたことから、取組全体としては評価できる。

- ・ **目標達成度**：全北海道女性科学者研究活動推進協議会（Full-HoWS）を設置し、女性研究者支援のネットワーク構築に関する目標をほぼ達成したことは評価できる。しかしながら、実施機関の女性教員比率については、目標を下回る結果となっており、女性教員の比率向上に係る今後の更なる取組を期待する。
- ・ **取組**：先駆的な取組であるポジティブアクション北大方式のインセンティブを強化し、継続して取組を実施したこと、また、連携機関が広域に点在していることを勘案し、メール会議、セミナーのオンライン配信などにより、効果的な連絡・協力体制を構築したことは評価できる。
- ・ **取組の成果**：実施機関において、女性テニユア教員が 17 名増加し、中でも女性教授が 13 名増加したことは評価できる。また、連携機関との共同研究を推進し、多くの連携機関において女性研究者が増加したことも評価できる。
- ・ **実施体制**：実施機関が中心となって、連携機関を牽引する体制や連携機関間のコミュニケーション

ョン基盤を確立したことは評価できる。しかしながら、実施機関において、女性教員比率の数値目標を達成する上で、実施機関全体の意識改革が十分であったとは言えず、今後は、機関の長のリーダーシップがなお一層発揮されることを期待する。

- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施機関においては、十分な自主経費を確保し、これまで実施した取組を継続、発展させており、評価できる。また、実施期間終了後も、本事業で構築した連携機関のネットワークを活かして、様々な取組が連携機関において継続されており、今後も北海道内における女性研究者の活躍促進が図られるものと期待する。